

《大学》

岡山理科大学

【ものづくり教育と地域連携による就業力育成】

取組の概要【1ページ以内】

本取組は、岡山理科大学において各組織間の連携を図りながら就業力育成のための体制を体系化するとともに以下の内容を実施することにより、工学部の学生に対して工学分野における就業力（ものづくり就業力）の育成をめざすものである。

① ものづくり就業力育成科目の充実化と体系化

全学的組織である教育開発支援機構及び学務部並びに工学部との連携により、全学的なキャリアデザイン講座やキャリア支援科目を基盤として、工学分野における就業力を育成するためのものづくり就業力育成科目を体系化する。

まず、職業観や勤労観の醸成、自己分析などを行いながら学生自らがキャリアデザインの構築をめざす「新入生キャリアデザイン講座」を新設するとともに「キャリア支援科目」を整備する。さらに、工学部において、ものづくり就業力育成科目を整備する。「初年次教育科目」では、学びのゴールとしての技術者像を描かせ、専門課程の全体像を理解させるとともに、入門的なものづくりによって、ものづくりの全体的な流れを理解させる。2・3年次のものづくり実践教育科目である「プロジェクトマネジメント」「プロジェクト」ではプロジェクトの管理・計画・実施方法などを学ぶとともに、グループによる本格的なものづくりプロジェクトを行うことにより問題解決力やリーダーシップ力、協調性などの実践力の養成やPDCAサイクルの理解をめざす。

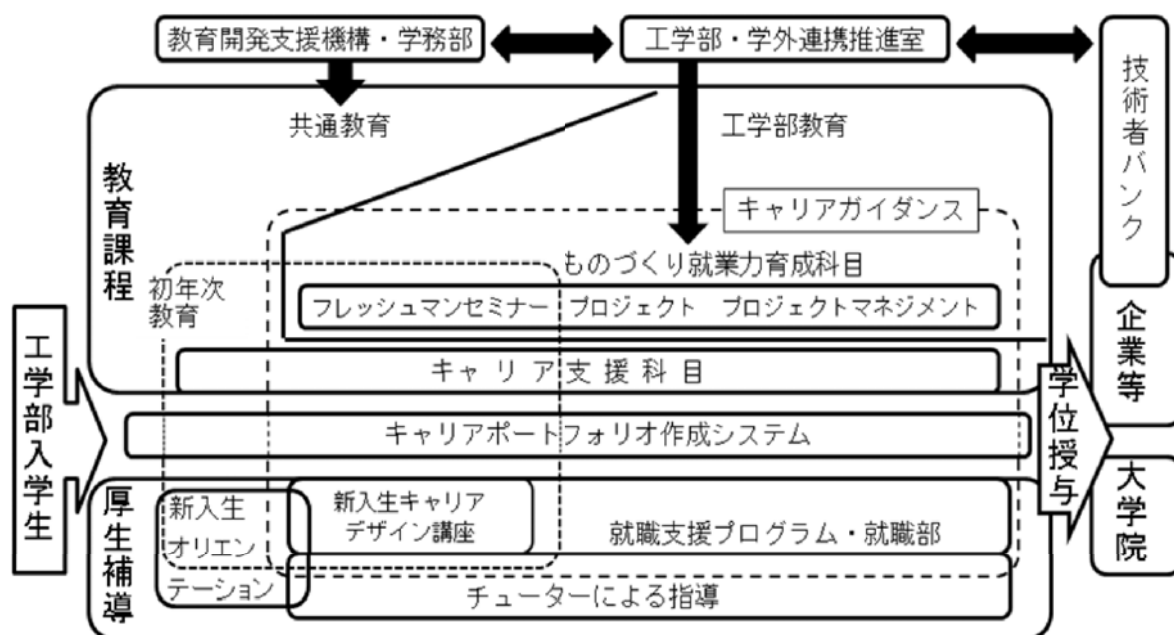
② 工学教育技術者バンクの構築による地域産学官連携

本学教育に協力可能な多様な分野の技術者を登録し、学外連携推進室のコーディネーターが調整し、適切な分野の技術者を就業力育成科目の実務家教員として選任する。また、本学の常勤の実務家教員と連携してカリキュラムや教材開発に参画してもらう。

③ キャリアポートフォリオ作成システムによる学生主体学習

就業力育成のための指導は様々な形で実施されるため、それぞれの学生に合った選択が可能である。そこで、学生自らが主体的に授業科目や講座を選択し、計画的に履修するとともに、学習の到達度を把握する学生主体学習をめざす。

本取組のフレームワーク



《大学》

くらしき作陽大学

【目標設定と継続的成長を支援する人間教育】

取組の概要【1ページ以内】

本学は、これまで建学の精神「大乘仏教に基づく宗教的情操教育により豊かな人間性を涵養する」を人間教育の基本とし、社会や人生に対する感謝と奉仕を実践する「菩薩道を歩むプロの養成」を使命としてきた。学是「念願は人格を決定す 継続は力なり」を実践する教育課程の中で、学生が目標とする専門職及びそれを中心とした幅広い職業人の養成に取り組んできた。しかしながら今日急速にグローバル化し多様化する社会や価値観の中で、社会のニーズや学生の就業意識の変化に対応したきめ細やかで実践的な社会との接続教育、キャリア教育に対しては組織的な取組が十分ではなかった。学生の就業力育成の観点から本学の人間教育を基礎として、社会人・職業人として必要とされる汎用的な基礎力と課題解決能力を実践で身に付ける地域協働型授業を体系化・カリキュラム化し、学内組織・体制を整備することによって、学生が生涯に渡って確固たる価値観・職業観を持って主体的に社会参加していく力を育成することを目標とする。

本取組では、就業力を「学生自身が自己理解を深め、働くことや生きることの意味について自ら考え抜く力を育成し、その力を基礎として実社会で必要な能力を身に付け、自ら目標を設定し成長を継続する力」と定義し、学内推進組織として「就業力育成支援プロジェクト」を立ち上げる。そのプロジェクトでは、本学学生の就業に関する意識調査から現状把握を行い、そのデータから学生に必要な能力を体系化し、職業観・勤労観を醸成し実習や進路の相談指導にあたる（Plan）。体系化に当たっては、就業力育成の観点から、地域から学ぶ実践教育、地域貢献活動や企業へのインターンシップを組み入れる（Do）。「学び」と「実践」の中で学生自身の能力の成長確認の自己評価と教員・地域との多元的な能力評価によって（Check）、さらに能力向上を図る（Action）地域協働型就業力育成PDCAサイクルを構築する。

また、本取組の特長としては、学生間交流科目を充実拡大させ、学生同士が交流し意見を交わし合う機会を拡大させる。本学は音楽学部、食文化学部、子ども教育学部の3学部で構成されており、学生は、それぞれ音楽家、音楽指導者、栄養士、管理栄養士、保育士、教員など専門職を理想として進学をしてきており、そのため画一化された職業のみに囚われがちな傾向がある。学生間交流科目では、それぞれが学ぶ専門的な知識を活かして学生間で意見交換する中で、職業についての理解や認識を深め、相互に幅広い職業選択の可能性を意識させることを目的とする。学術的な専門分野だけでなく、人間関係や社会全体の仕組みに注意を向けさせ、自らの価値観の形成とそれに基づく就業意識を醸成させ、企画、コミュニケーション、チームワーク、自己啓発という社会人としての基礎的な能力を身につけさせる。就業力育成支援プロジェクトは、その活動を円滑に進めるために事前指導や地域社会・産業界との調整、マネジメント等、学生間の交流を活性化させるための指導を行う。

さらに本取組では、学生の就業力に関わる履修状況、学内活動、キャリア指導履歴などのデータをまとめ蓄積し、科学的に適切に学生を指導するキャリア教育支援システム、WEB上で学生の活動を支援するコミュニケーションツールや自己分析ツール（アセスメントツール）、必要な社会人としての基礎スキルを修得するeラーニング科目の設置などの教育情報基盤の整備を行う。就業力育成に関する情報公開については独自のHPを立上げ、学内関連部署と連携を取りながらプロジェクトで取りまとめ情報公開を推進する。

《大学》

ノートルダム清心女子大学

【保育職・教職のための体験型就業力育成】

取組の概要【1ページ以内】

本学の人間生活学部には、保育職及び教職を志望する学生が多く、卒業生の実績としても、これらの職に就いている者が多い。そこで本取組では、主として保育職・教職を目指す学生を対象に、学生の資質向上を図り、就業力を高めることを目的とする。

本取組における就業力とは、(1)総合的人間力(人間基礎力)、(2)子ども理解力(単なる理解ではなく、どのように対応するかをも包含している)、(3)保護者支援力、(4)協働力である。総合的人間力は、本学の理念であるキリスト教精神とリベラル・アーツを主体とした全人格的教育によって育成している。しかしながら、保育職・教職に特化した能力(子ども理解力、保護者支援力、協働力)の育成には、更なる体験型教育と支援が必要となる。本取組は、保育職・教職にとって不可欠な実践的能力である(2)子ども理解力、(3)保護者支援力、(4)協働力の育成を図るプログラムである。これらの能力は、単に理論や知識の獲得のみで身に付くものではなく、実体験を通して学生自らが省察し、理論・知識との統合を図ることによって、はじめて実践力として養われる。

これらの能力を育成するプログラムは、1)連携教育システム及び2)サポート・システムから構成される。

1)連携教育システム：従来のボランティア活動や教育実習に加えて、**観察・体験型の授業**(保育・教育基礎実習：教育実習前に実施、保育・教育インターンシップ：教育実習後に実施、キャリア形成講座：コンソーシアム岡山と連携)を開設する。附属学校園及び岡山市内・倉敷市内の**学校園と連携**し、継続的な実体験を可能にするだけでなく、**カンファレンス**を開き、事前・事後の指導を実施する。カンファレンスを通して、学生自らが保育・教育職への適性・資質を省みるとともに、学習した理論や知識をいかに活用すべきか、どのような工夫ができるかを省察し、さらに現場目線から見つめ直す機会を提供する。

附属学校園(幼稚園、小学校)及び岡山市内・倉敷市内の学校園(保育園、幼稚園、小学校)と連携し継続的な実体験の場を提供してもらい、カンファレンスには連携校園の先生にも参加してもらおう。また、連携校園での親子会(わらべうたあそび、読み聞かせ、料理体験など)・保護者会の企画や学校園の行事にも参加させてもらい、保護者と関わる機会をつくる。

2)サポート・システム：連携教育システムを円滑かつ効果的に実施するために、既存の「教職相談室」(P.13-V参照)に加えて「**保幼小修支援センター**」を開設し、①学生への指導・助言に加えて、②観察・体験型授業の支援、③連携校園とのカンファレンスの企画・運営、④教職ポートフォリオの管理等、を行う。このセンターのスタッフには、従来の相談員の他に教育・行政経験豊富な「**コーディネーター**」を雇用する。さらに、本学の学務部(教務係、学生係、キャリアサポートセンター)と協働することによって、教職員が連携して学生をサポートできるシステムを構築する。このシステムを構築するために、既存のソフト(Universal Passport)を拡充する。

以上のプログラムを実施し、その実施状況や成果を公開・評価する組織は次のとおりである。プログラムの実質的实施部門は「**教職就業力育成プログラム実施本部**」(P.10の図3参照)で、連携教育システム及びサポート・システムの中核的存在であるが、その上位組織として「**教職就業力育成代表者委員会**」を置く。この委員会の役割は、本取組の方針策定、実施状況の検証、本取組の情報公開、成果の内部評価、シンポジウムやフォーラムの企画である。また、外部評価組織として、「**教職就業力評価委員会**」を設置する。

《大学》

倉敷芸術科学大学

【キャリアデザインの発想による産学実践教育】

取組の概要【1ページ以内】

本学は、芸術学部、産業科学技術学部および生命科学部の3学部で構成されている。その中で、芸術学部の就職率が全国の大学の平均と比較して20%程度低く推移しており、学生の就業力を高めるための取組の実施が喫緊の課題と言える。

こうした課題を解決するために、芸術系大学の卒業生がもつ能力やその可能性をさらに社会で発揮できるように、就業に力点をおいたカリキュラムの見直しや、新しいコースの設計について、学長のリーダーシップのもとに全学的な検討を重ねてきた。その結果、学生の就業力育成をめざしたキャリア教育科目の必修化、キャリアデザインコースの新設、それらを支えるキャリア支援組織などの整備が不可欠であるとの結論に達した。そこで、全学において取組の成果を反映させるべく、展開型キャリアデザインプログラムを策定し、平成22年度から5年計画で段階的・継続的に事業を展開する方向で、学内の合意を得ることができた。本取組の目的および実施計画は、つぎの4点に要約される。

第1は、カリキュラムの改善である。まず、平成18年度に選定された現代GP「取組名称：人生を展望した総合的キャリア教育の実践」で基盤を整備したキャリア教育科目の必修化を行う。具体的には、「人生と仕事Ⅰ」（1年次）、「人生と仕事Ⅱ」（2年次）、「キャリア・ラーニング」（3年次）、「キャリア・チャレンジⅠ・Ⅱ」（2～4年次）を、平成23年度より新設される芸術キャリアデザインコース（芸術学部）で試験的に導入し、検証を重ね、就業力アップの学習モデルを完成させる。そして3年後に芸術学部全体、5年後には大学全体の取組へと発展的に展開する。

第2は、キャリアデザインプログラムの実施である。これは、個別学習理論として代表的なIEP (Individualized Education Program)に基づいて、学生自身の将来像を実現させるための“個別キャリア学習計画”の作成が中心に位置付けられたプログラムである。また、インターンシップや現場実習、さらには職種・職域ごとに必要な技能を獲得するための職業研究も行い、これらのことを系統的に実践し、就業力向上のための問題解決の本質に迫っていく。

第3は、総合的支援体制の構築である。これまでのセクションの縦割りによる学生への支援体制の弊害を克服する新しい支援体制として、就業支援スペクトラムネットを構築する。就業支援要素を連続体（スペクトラム）として捉え、学生支援を行う複数のセクションの様々な要素を複合的に捉えられるネットワークを新設して、全学をあげて就業支援体制の再構築を行う。

第4は、学生マイスター制度の創設である。岡山県内の有力企業グループおよび付設の企業内研修機関と連携し、グループ企業での就業体験、企業内研修への参加、そして大学に実務家講師を招いて行う実学的専門教育を通じて、企業が求める専門的職業人（マイスター）をめざした産学実践教育を実施する。

以上の取組をより有効なものとするために、OCRによる学生アンケートの簡略化、eポートフォリオの活用など、学生情報の蓄積と共有を図る。また、就業力育成に関する大学の情報発信は、Webや大学が発行する広報誌、学会誌、学外への報告会などを活用し、積極的に行い、日常的、定期的な情報の整理および情報発信を行う。

以上が、学生の望む将来像を実現させるための就業力育成をめざした取組の概要である。

《大学》

広島修道大学

【”修道力”を育てるための教育体系構築】

取組の概要【1ページ以内】

本学では「教育の質の保証」を行うため、学士課程教育を通して獲得されるべき力としての学士力『**修道力**』の検討を進めている。この『**修道力**』は、建学の精神を21世紀社会において展開する方向性であり、教育改善の指標となるものである。『**修道力**』は、最終的に、一人ひとりの学生が自らの進む『**道**』を見出すことで現実化する。この意味で修道力は就業力として実を結ぶといえる。既に、各学部・学科・専攻においては、『**修道力**』との関連で学習目標を同定し、それを実現するという観点から、2011年度より新たな教育課程（カリキュラム）を導入する。この新たな教育課程において、本学卒業生の実業力獲得を強く意識した全学的で教職協働による取組を行う。

第一に学生自らが目標を設定し、その到達プロセスを振り返りながら達成度を学生と教職員が評価していく**修大版キャリア・ポートフォリオ(ShuP)**を導入する。これにより、学士課程における就業力獲得を目指す。第二に地域社会を支える中堅的な人材を多く輩出してきた本学の強みを活かし、卒業生とのネットワークを組織化した**卒業生CS(キャリア・サポーター)バンク**を構築し、卒業生の人的資源を就業力育成支援に活用する**CSプログラム**を進める。このプログラムには就職活動を終えた4年生も参加する。第三に学士課程におけるキャリア形成に関する基本的な知識を修得し、キャリアデザインについての理解を深める**全学キャリア教育プログラム**として、「修大基礎講座(キャリア入門)」(1年)、「大学生活とキャリア形成」(2年)、「キャリアと人生」(3年)を開講する。第四に、学士課程教育の就業力獲得という観点での意義を理解するために、実務家を講師とする**実学的専門教育科目**、ならびに現実の課題の解決に自発的に学生が取り組む**地域プロジェクト科目**を導入する。これら科目の導入においては、**卒業生CS**を実務家講師として招聘する。第五に**インターンシップ**を自らの有している資質能力の現状把握と、その後の学修計画の再構築に資するため、事前・事後指導を充実して**キャリア教育プログラム**との連携を進めるとともに、地元経済界の要望に柔軟に対応するために認定**インターンシップ**を導入する。

なお、本取組の一部は、転職等の再チャレンジを行おうとする卒業生にも適用し、彼らを地域社会の発展に貢献できる人材となるようサポートし続ける。

